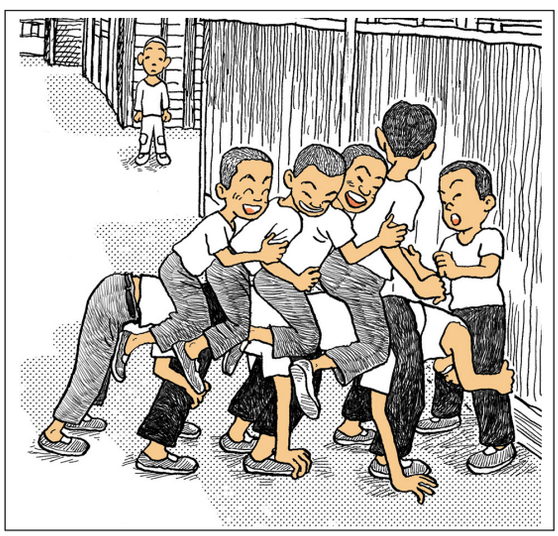
東成区の昭和・思い出ほろほろメモ

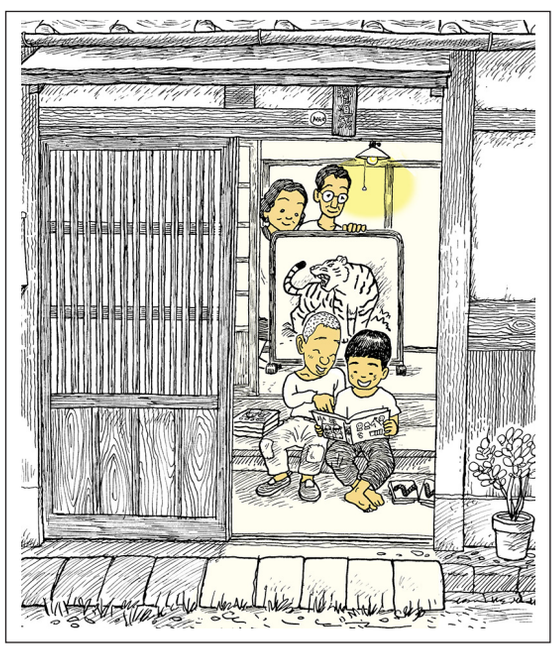
絵と文：柳たかを
（マンガ家）

「『対人援助マガジン』にあの作品を掲載しませんか？」ある日、本誌の団編集長からそんなメールをもらいました。
（あの作品）とはわたしが10年以上前、自分のHPで毎週２～３本ずつアップロード連載していた４コマ漫画『東成区の昭和』自分史漫画のことです。
申し遅れました、柳たかをと言います。
私の幼少期、子供の多い時代でした。当時の男の子のおもな遊びは、三角ベース、べったん（めんこ）、ベーゴマ



昭和の遊び「胴馬」

（禁止する地域も）、ラムネ（ビー玉）、コマ回し、胴馬（集団遊び）などでした。体をぶつけあうより、絵とお話が好きな私は、どちらかというとおとなしい子供だったと思います。
近所に２歳年上の聴覚障害者のＩ少年がいました。いつも僕らの集団遊びをうらやましそうに遠くから眺めていましたが、ある日彼をひどく怒らせる差別的事件がありました。
手指で（聾唖）を意味するサインを送った人がいたのです。
怒るＩ君は日頃から、同じようなイジメにあっていたのだと思います。
怒るのは当然です。
意味をしらない私もまねたら、Ｉ君が激怒してつかみかかってきました。
たまたまＩ君の肉体労働者の父親が帰宅の途中でした。
その場面を見た為、父親は激怒しイジメ側の私は目から火花が出るほど石のように固い拳骨を一発頭にもらいました。
でも、その事件をきっかけにＩ君と急接近しました。
彼の楽しみは漫画を読むことだったのです。夕食のすんだ頃、私の家にマンガ本を数冊もって訪ねて来て、二人で玄関に座り、無言で一緒にページをめくりました。
Ｉ君の「うううう…フフフ」といううめくような笑い声。



聾唖者のＩ君と玄関で漫画を読んだ

彼の体温と匂いを感じながら、Ｉ君がとても癒されているのが伝わってきました。
同時に私もしびれるような満ち足りた感動を味わったのです。
この経験から心が通じ合うのは明快に分析する言葉よりも、互いのエネルギーを感じあえるほど近くに身体を寄せ、同じ方向を向いて共にすごす時間を持つほうが効果があると思うようになりました。

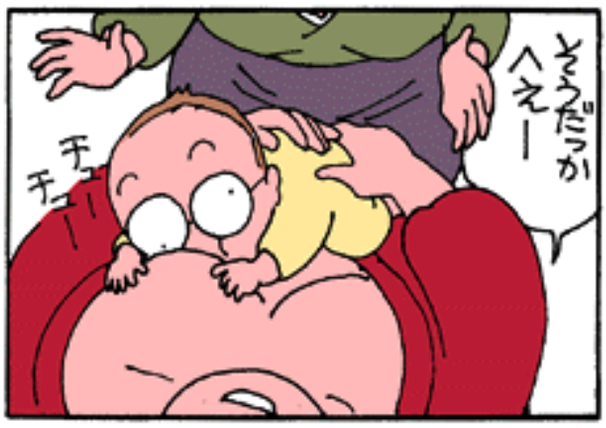
『東成区の昭和・思い出ほろほろメモ』は、そんな幼少時代を過ごした昭和の時代を忘れたくなくて描いていった四コマストーリー漫画です。

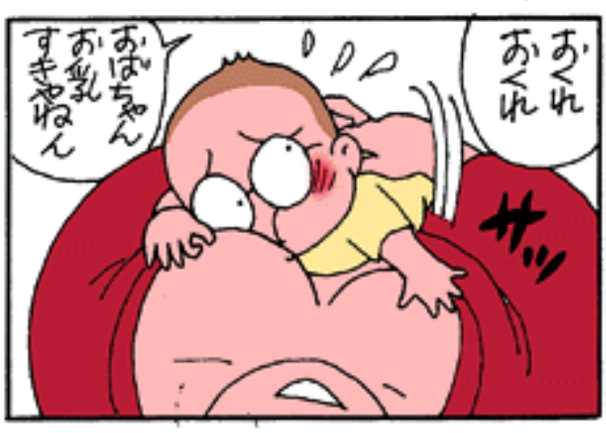
やぶにらみ日記

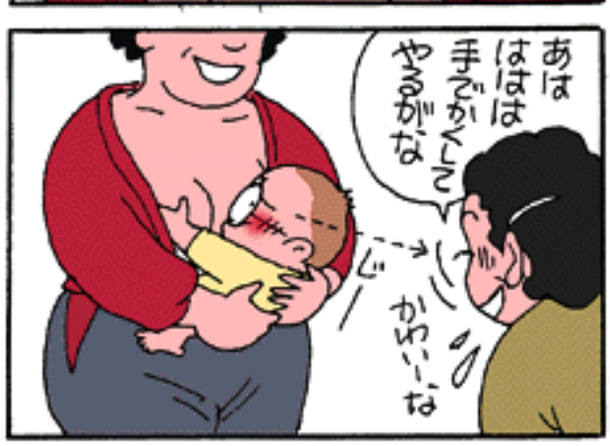
New！東成区の昭和(1)

やぶにらみ日記

New！東成区の昭和(2)

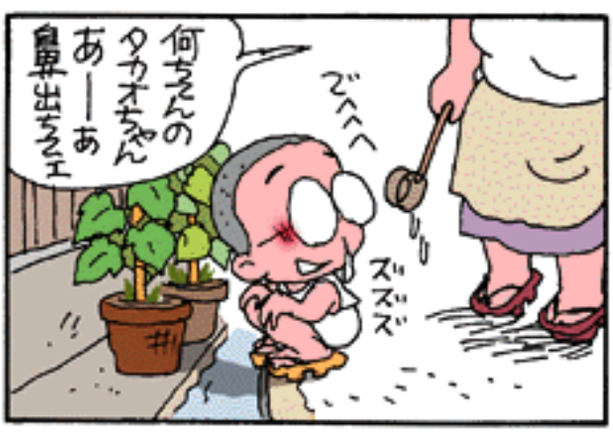


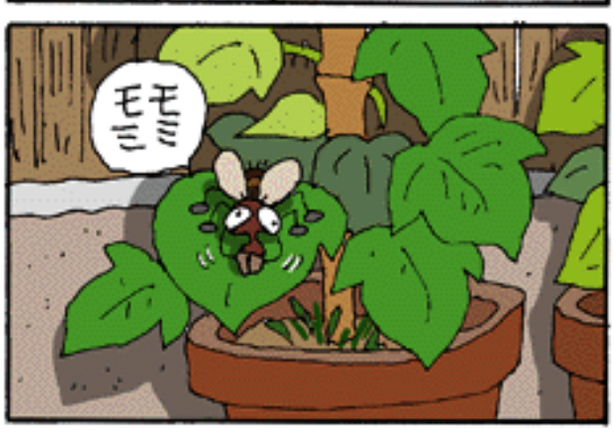




やぶにらみ日記

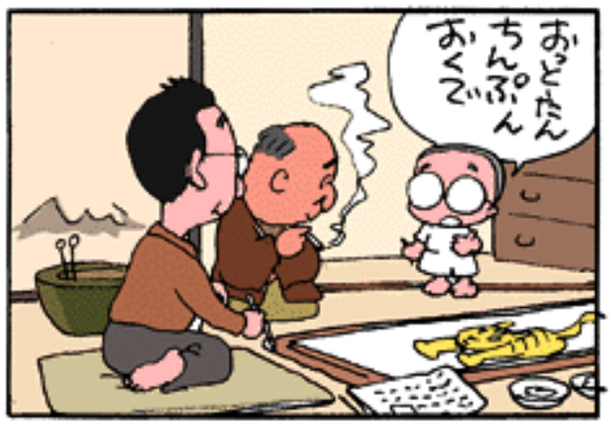
New！東成区の昭和(3)

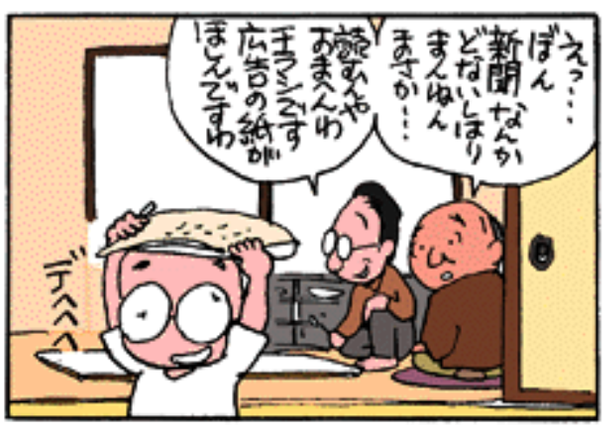


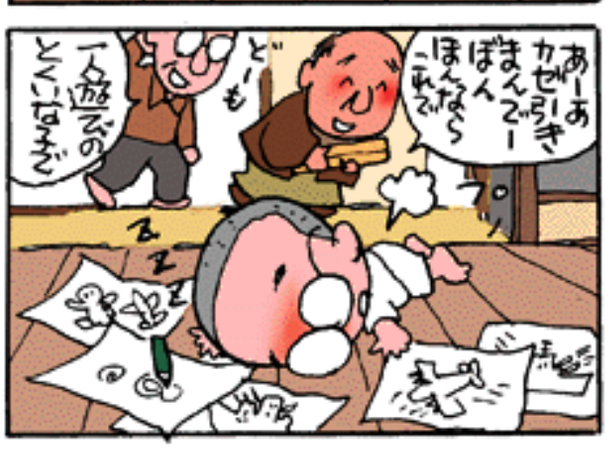


やぶにらみ日記

New！東成区の昭和(4)







やぶにらみ日記

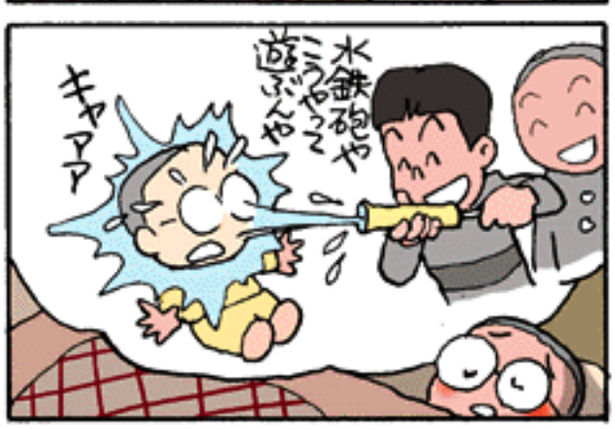
New！東成区の昭和(5)

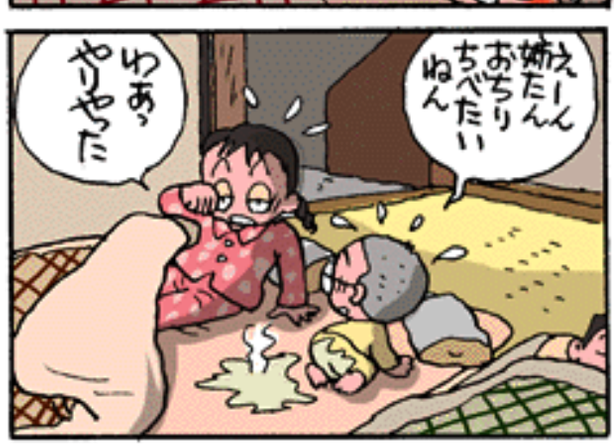
やぶにらみ日記

New！東成区の昭和(6)

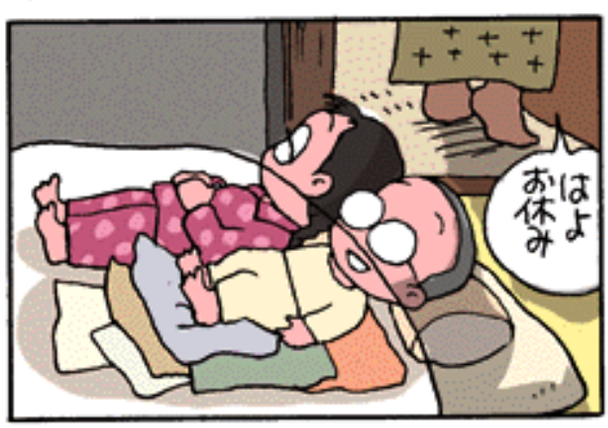
やぶにらみ日記

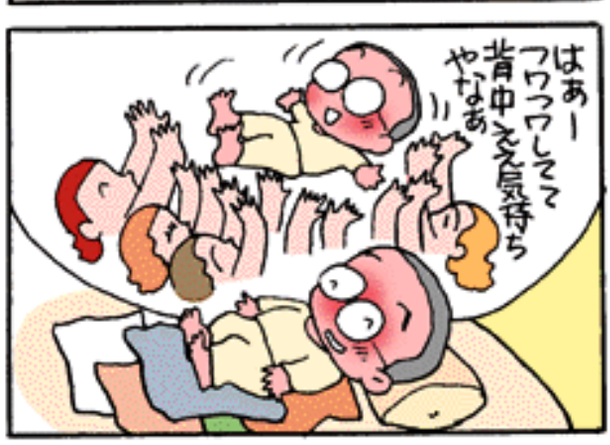
New！東成区の昭和(7)





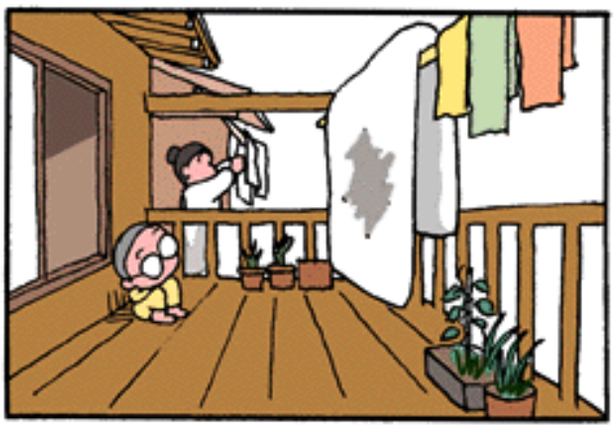
New！東成区の昭和(8)

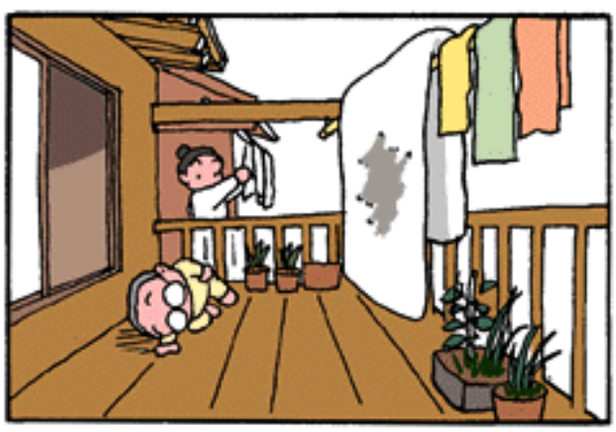




やぶにらみ日記

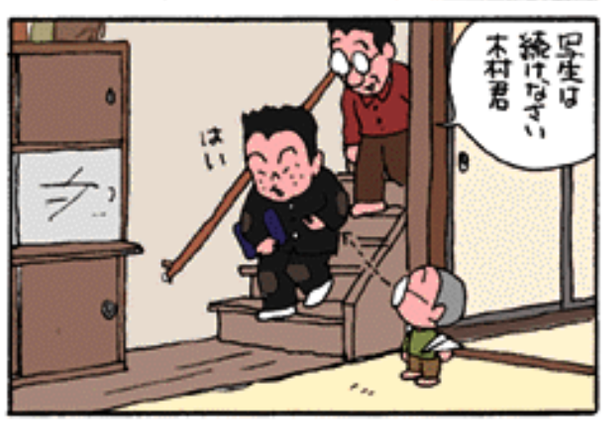
New！東成区の昭和(9)





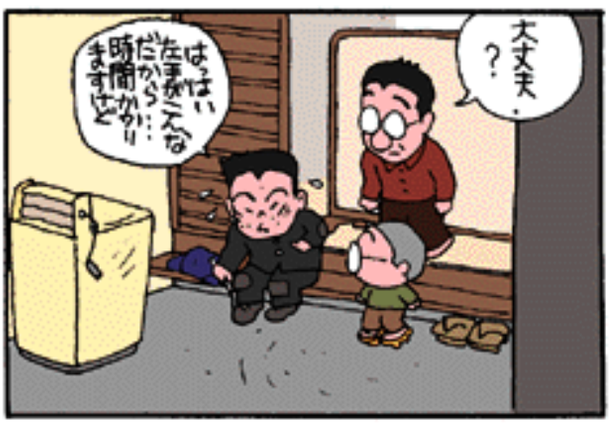
やぶにらみ日記

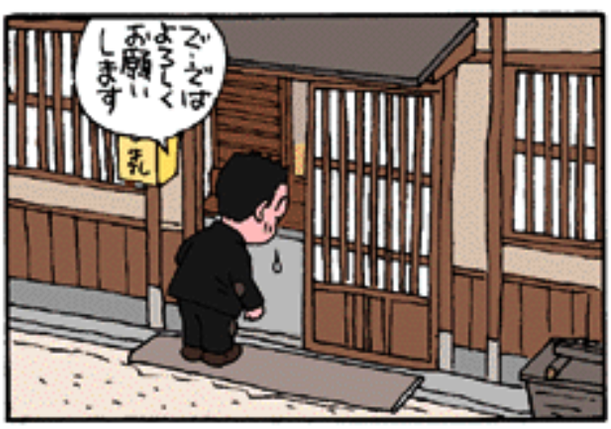
New！東成区の昭和(10)

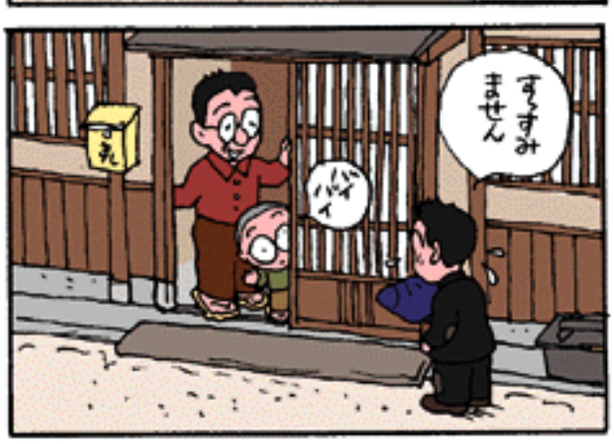


やぶにらみ日記

New！東成区の昭和(11)

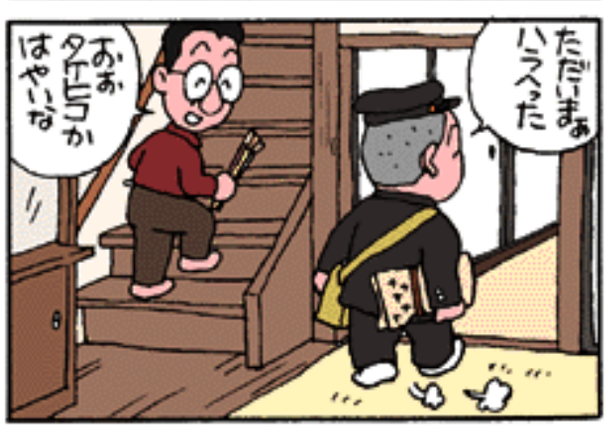






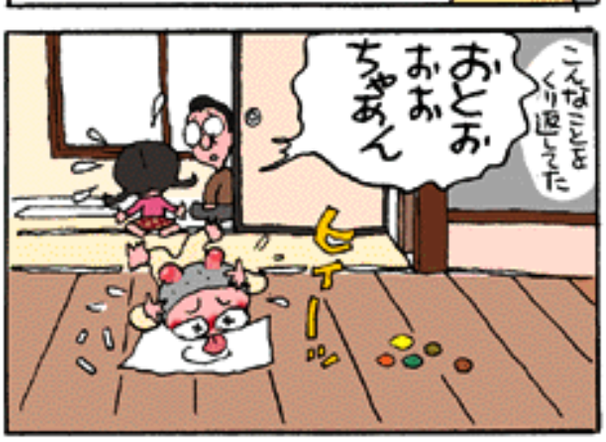
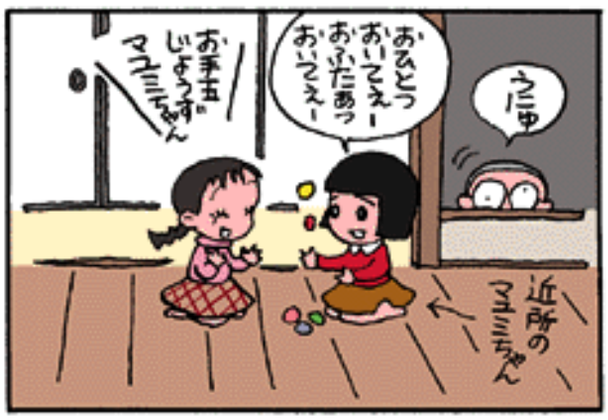
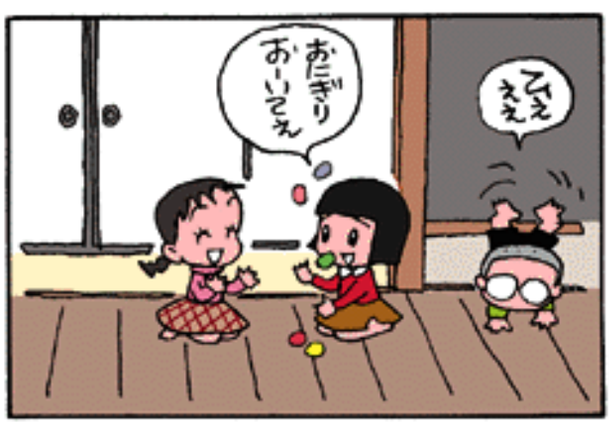
やぶにらみ日記

New！東成区の昭和(12)



やぶにらみ日記

New！東成区の昭和(13)



New！東成区の昭和(14)